

物理的な距離と心理的な距離を 組み合わせるコミュニケーション。

/ 場所や世代など様々なギャップを解消する情報へのアクセシビリティ

/ リアルとバーチャルを融合した選択可能な新しい対話

/ ひとびとが安心するための見える化された情報を提供

物理的な距離と心理的な距離を組み合わせるコミュニケーション

「リモートワーク」と「オフィスワーク」、これからは「多様な人×多様な場所」の相乗効果により、ますます新しい価値の創出が求められます。

「リモートワーク」によるメリットとデメリットが広く認識されるようになった今、コミュニケーションの不安を解消する様々なソリューションが生まれています。

私たちは、「働く場」における「新しいコミュニケーション」を皆さまと共に考えます。



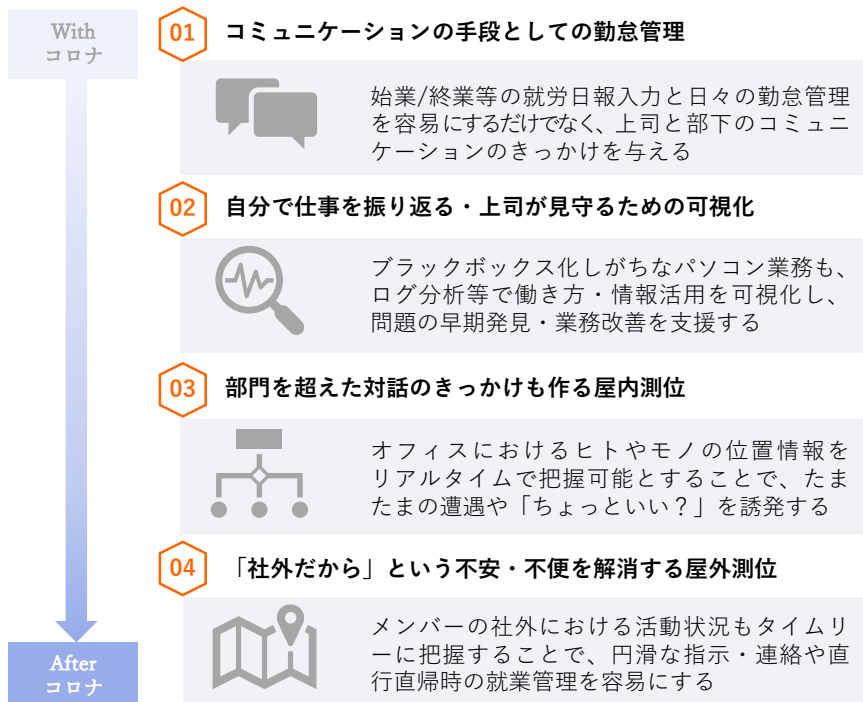
- 誰が何処でいつ仕事をしているか分からず、管理職が業務を把握できない
- ネットワーク回線や家具・什器等、自宅での執務環境が整っていない
- 電話やメールだけでは意図を伝えきれず、コミュニケーションに支障が出る
- WEB会議に不慣れで、スムーズに進行できない
- 少し声を掛ける等の気軽なコミュニケーションが取れない
- ローテーション勤務では顔を合わせない人が出てくる
- 徒歩・自転車で通勤できる距離にオフィスがない



- 感染防止のため、会議参加人数を減らさないといけない
- 換気設備がない会議室だと扉を開け放つため声が漏れる
- 距離を取った席にするためレイアウトが必要あり、席が足りない
- 自席でWEB会議を行うため声が気になる
- 従業員の感染発覚時や感染が疑われた時、濃厚接触者が誰かわからない
- 出社時に検温する必要がある手間がかかる
- 手指衛生を保つため極力ものに触れない、逐一消毒する等の対策が必要で手間がかかる

場所や世代など様々なギャップを解消する情報へのアクセシビリティ

働く場が分散すると、場所や年代、又情報に対する感度や思考により様々なギャップが生じてくる。就労日報の報告をコミュニケーションツールとして活用し、実際の勤務状況を可視化することで、Afterコロナ時代の働き方を支えます。



リアルとバーチャルを融合した選択可能な新しい対話

働く場が分散している状況でも、従来のオフィスワークと同様に執務者同士がコミュニケーションを取りスムーズに情報共有・合意形成を図れる環境が求められる。

リモートの良さを生かしつつ、仕事の内容によりリアルとバーチャルの度合いを選択しながら、打合せを進化させられると考えています。



ひとびとが安心するための見える化された情報を提供

出社する従業員や来訪者の体温等の健康状態及び換気状況などの室内環境といったヒト・モノの状態をセンシングし、発熱者や気密状態などの感染リスクを見る化（可視化）することで、より安心して働らく場を提供していきます。

